現代社会ウォッチング vol.4

外国からみる日本の政治 —アメリカからみる（その2）そして次の比較へ

●筑波大学大学院教授　辻中 豊

▲ アメリカのトランプ大統領批判のデモ

前回，アメリカ大統領選挙の隠れた争点は，いかにコミュニティを維持するか，崩壊を食い止めるか，多様な人々からコミュニティをいかに創りだすかであったのではないかと指摘しました。

「世間のない」市場競争の国，アメリカ

最近，アメリカでジャーナリストをしている筆者の教え子の一人から，トランプ政権以後のアメリカについて，次のようなメール※1をもらいました。

「日本との違いでいつも思うのは，個人主義とそれぞれが持つ経済，価値観，イデオロギーの違いが天と地ほどの開きがあるということです。極貧からビル・ゲイツまでの差，中絶を殺人と固く信じている人，銃を国家との対峙で重要な権利と固執する人，イスラムやヒンズー，仏教を信じる人，個人にお金を戻した方が有効に使えると考え政府の役割をなるべく限定しようとする人，さまざまな国からの移民。利益追求と，フィランソロピー（筆者註，社会貢献）。日本のように「世間」というものがなく，世間がどう思うかは，ほとんど個人，団体，企業の行動を縛らない点。世間，近所のつながりというものはほとんど存在せず，市民社会（市民団体）はそれぞれの関心（宗教，社会問題，スポーツ，民族，子育てなど）によってつながりあっているというのが印象です。いろいろな人が書いていると思いますが，トランプ勝利の背景は，技術革新とグローバリゼーションによる経済・産業構造の変化の中で置き去りになった人たちの苦境を政治が解決してこなかったことだと思われます。」

アメリカには「世間がない」というのはどういうことでしょうか。世間とは明治期に社会という言葉が導入される以前から日本にある，社会，世の中，世の中の人々，人の世を指す言葉ですね。元は仏教用語のようですが，いずれにせよ，彼女が感じているのは，アメリカには日本人が感じる社会がない，ソーシャルキャピタル(社会関係資本)のあるコミュニティ，社会のもつ一体感が存在しないように見えるということです。人々はそれよりも，cause(大義)，idea(理念)，interest(利害)，concern(関心)などと表現される主義主張に基づいて自らの公共的なものを定義し，社会全体を意識せず，社会での評判に囚われずに行動しあっているということです。

言い換えれば，アメリカに存在するのは，いわば個人が単位となった個人主義の市場です。商品など取引に見られる経済の市場はいうまでもなく，市民の社会でも政治でも同じように市場があり，そこで人々は競争し合っています。人々のつくる人間関係としてのソーシャルキャピタル，そして人々がソーシャルキャピタルを育むコミュニティが乏しいこと，その代わりに考え方の違いの自由競争が社会でもいつも激しく行われ，その一つの大きな結果がトランプ大統領の誕生だ，ということでしょう。前にも書きましたが，多くのアメリカ人も，地域のコミュニティを大事にしていますし，フリーマーケットなど触れ合いの機会もたくさんあります。ただ，それが急速に壊れていると多くの人々が感じており，その解決策をこれまでと全く違う手法の政治家に委ねたということなのです。

多くの人にこのトランプ大統領の登場はショックを与え，その結果これまで以上に大きな社会運動も生じています。注意すべきは，トランプ政権の政策に反対する大規模な抗議運動デモンストレーション※2も，アメリカの政治体制自体を否定するのではなく，次の制度的な選択機会に向けて，具体的には2年後の中間選挙や4年後の大統領選挙に向けて，活動している点です。

日本と人口規模の似た，とても異なる2つの国へ

世界の人々の間で，実は世間が崩れ，コミュニティが崩れているという感覚が広がっています。アメリカでは大きなデモが生じていますが，ほかの国ではどうでしょうか。

これまで中国，アメリカと比べながら，日本のことを考えてきましたが，もう少し比較する国を変えてみましょう。日本の政治を考えるときに，普通，ヨーロッパの諸国，特にイギリスやフランス，ドイツ，イタリアなどがあがります。確かに，いずれも似たところと違いがあって，日本を理解する参考になります。しかし，世界には200ほども国が存在するのです。もう少し今回は違う角度からも見てみましょう。

バングラデシュとロシアです。ずいぶん違った国だと思われるでしょうね。実は，日本と両国は一つの点でよく似ています。人口規模です。つまり，世界各国のうち，人口の8位(バングラデシュ)，9位（ロシア），10位(日本)の国々にあたり，順に1.63億人，1.43億人，そして1.26億人の人口を有しています（2016年）。世界一の国土面積を誇り日本の45倍の広さのロシア，国土面積が日本の4割と小さいバングラデシュの両国が，日本より少し大きい規模の人口を擁しているのです※3。

▲ バングラデシュ，ダッカの風景

人々の生きる近隣地域であるコミュニティや人間関係を示すソーシャルキャピタル，そして政治と民衆の関係を考えるうえで，こうした人口規模や国土面積，また人口密度や都市集中度は大きな関係をもっています。その上に熱帯雨林に位置するバングラデシュと大部分が冷帯に属するロシアは，大部分が温帯に属する日本との風土の違いもあります。

風土と政治の関係は，アリストテレス※4やモンテスキュー※5以来，多くの政治学者の関心を集めています。また民主主義と政治体の人口規模の関係については，現代の民主主義の最も重要な理論家の一人であるロバート・ダールも『規模とデモクラシー』※6という研究書を著しています。とはいえ，多くの場合，政治や民主主義を論じるときに，風土や人口規模は十分に考慮にいれられていません。日本の人々の関心も偏っている場合が多いのです。これらの点を含め，次回に検討したいと思います。

●辻中 豊（つじなか ゆたか）
専門分野／政治学
主要著書／『大震災に学ぶ社会科学 第1巻 政治過程と政策』（東洋経済新報社，2016年），『現代日本のNPO政治—市民社会の新局面（現代市民社会叢書）』（木鐸社，2012年），『利益集団（現代政治学叢書）』（東京大学出版会，1988年），日本文教出版『中学社会』教科書著者

※1. 長沼亜紀（Aki Ellington Stocker）氏，ワシントン在住ジャーナリスト。引用は私信から許可を得て掲載。
※2. 例えば大統領就任式翌日2017年1月21日には，全米で数百万に規模の抗議デモが行われ，ワシントンD.C.にも数十万人の人々がデモに参加した。
※3. 人口密度（2015年）は，バングラデシュが1000人以上（平方キロ当たり），日本が336人，ロシアが8人である。
※4. 古代ギリシアの哲学者。Aristotelēs，前384年－前322年。158のポリスについてその国制を記録したとされ，その比較検討に基づき『政治学』を著した。
※5. フランスの哲学者，政治学者。シャルル＝ルイ・ド・モンテスキュー（Charles-Louis de Montesquieu，1689年－1755年）「法の精神」で風土と法，政治体制の関係を研究した。
※6. Dahl, Robert A. and Edward R. Tufte, 1973. *Size and Democracy*, Stanford : Stanford University Press.［内山秀夫訳，1979.『規模とデモクラシー』，慶應通信］.